

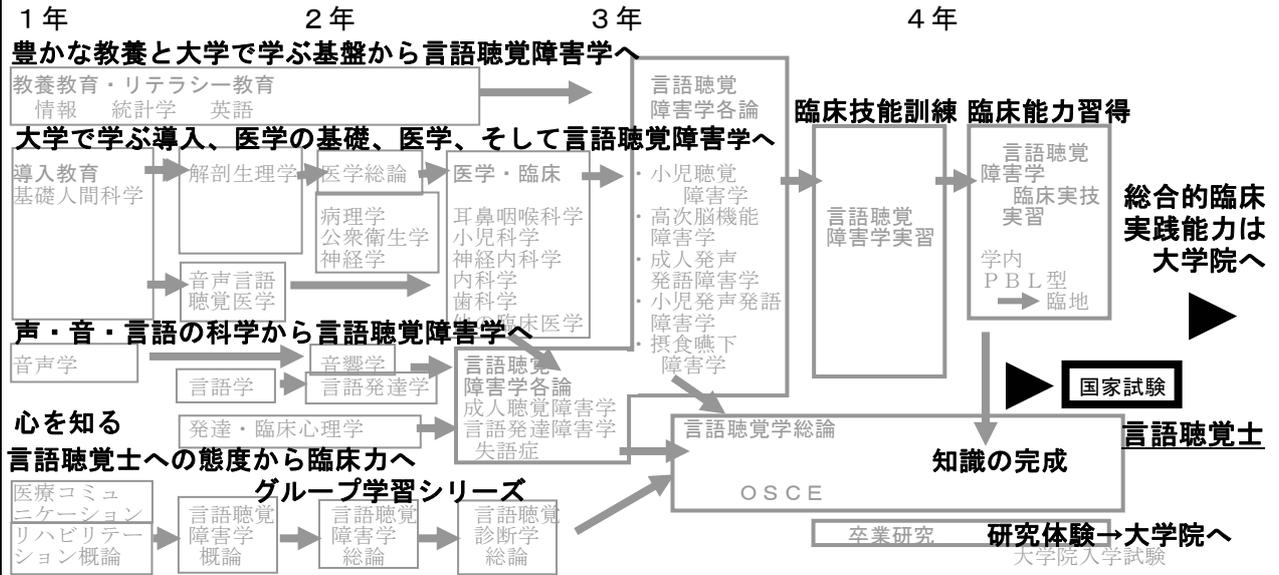
## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	北海道医療大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院		
主たる研究科・専攻名	心理科学研究科言語聴覚学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 阿部 和厚		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>1) 言語聴覚士は、平成9年に国家資格化し、聴覚障害、発達障害、高次脳機能障害・失語症、発声・発語障害、摂食嚥下障害など、医学的根拠によることばの障害を改善・支援する医療職である。北海道医療大学は、平成14年に心理科学部言語聴覚療法学科において4年制言語聴覚士養成を開始した。</p> <p>2) 本学大学院心理科学研究科言語聴覚学専攻は、<u>前期課程修了後に専門職に就く者のための高度専門職業人養成プログラムと、後期課程修了後に教育研究職に就く者のための研究者養成プログラムとを合わせ持つ体系的な教育プログラムを導入した、わが国最初の医療技術系大学院として平成18年4月に設置された。</u>本教育プログラムは、文部科学省中央教育審議会報告「医療系大学院の目的とそれに沿った教育等のあり方について」(平成17年9月)に述べられている医療系大学院における教育・研究指導の在り方と合致するものである。<u>言語聴覚士養成の独立専攻大学院としてはわが国最初</u>であり、修士(言語聴覚学)、あるいは博士(言語聴覚学)と、職業性と密接した学位が授与される。</p> <p>3) 近年、医療従事者養成教育の社会的責任体制として、医師、歯科医師養成では、総合的臨床実践能力を保証するために、6年制大学卒業・資格取得後、2年あるいは1年の臨床研修が義務化されている。また、薬剤師も資格取得までの課程修了年限を4年から6年とし、実務教育の充実を図るに至った。言語聴覚士は、他の医療技術職と同様に、医療の現場でチーム医療を担う一員として医療に従事する職能である。4年制大学教育後に国家試験によって国家資格を取得できるが、現状の学部教育では、この分野の将来を発展させる総合的臨床実践能力を保証する教育がまだ十分に役割を果たしているとはいえず、教育基本法第7条第1項に規定された「<u>新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより社会の発展に寄与する</u>」大学の人材養成としては<u>まだ発展途上</u>にあるといわざるを得ない。このような状況にあるのは、学部教育で実施される臨地臨床実習において総合的な実習を提供できる臨床現場がほとんどないことも一因となっている。したがって、総合的臨床実践能力修得を含む高度専門職業人養成教育は、社会責任という観点からも、<b>大学院で保証しなければならない。</b></p> <p>4) 本学心理科学部言語聴覚療法学科教員は、入学してくる学生と時代の変化に対応するため、平成15年以来、1日から2日のFDをこれまで9回実施し、さらに学科会議および臨時の検討会を重ね、教育の改善を行ってきた。また学部教育コアカリキュラムに関する<u>全国シンポジウムも実施(わが国初の言語聴覚士養成モデルコアカリキュラム作成)</u>し、学部教育カリキュラムの体系的プログラム化、大学院教育の設計を行ってきた。学部教育では、種々の教育改善の試行(言語聴覚士養成教育では、全国初のOSCEを実施・1学年に3回定着を含む)のうえ、平成19年度に新カリキュラムとした。学部教育につづく大学院は、<u>博士前期課程を必修30単位中、臨床実習12単位、修士論文となる課題研究6単位として、国家資格取得後の高度専門職業人養成教育プログラムをもつことを明確</u>にしている。<u>博士後期課程は、前期課程修了を前提として、必修19単位中2単位を臨床実習、12単位を博士論文となる課題研究として、臨床も踏まえた専門性の高い研究者・指導者を養成する形</u>としている。</p> <p>5) 申請のプログラムは、すでに上記の路線で開始している学部教育、大学院前期・後期課程教育プログラムにそって、大学院の教育課程の内容をさらに改善・充実して、大学院に高度専門職業人養成プログラムを確立し、<u>言語聴覚士養成教育のみならず医療系大学院のモデルを提供</u>する。</p> <p>6) 申請プログラムの3年計画では、1年目を調査研究(国内での医療技術系大学院の実態と分類、課題発見、米国における言語聴覚学系教育、とくに臨床実践能力養成教育システムの調査解析、学内における大学院臨床実習体制の改善)、2年目を構築強化(臨床実践能力を高度化と関連する大学院教育のコアカリキュラム作成、シンポジウム開催、実習体制の充実、新しい教育方法の試行)、3年目を実践評価(教育システムの実践、成果の公表)に主体をおき、その後の発展の基盤を完成させる。</p>			

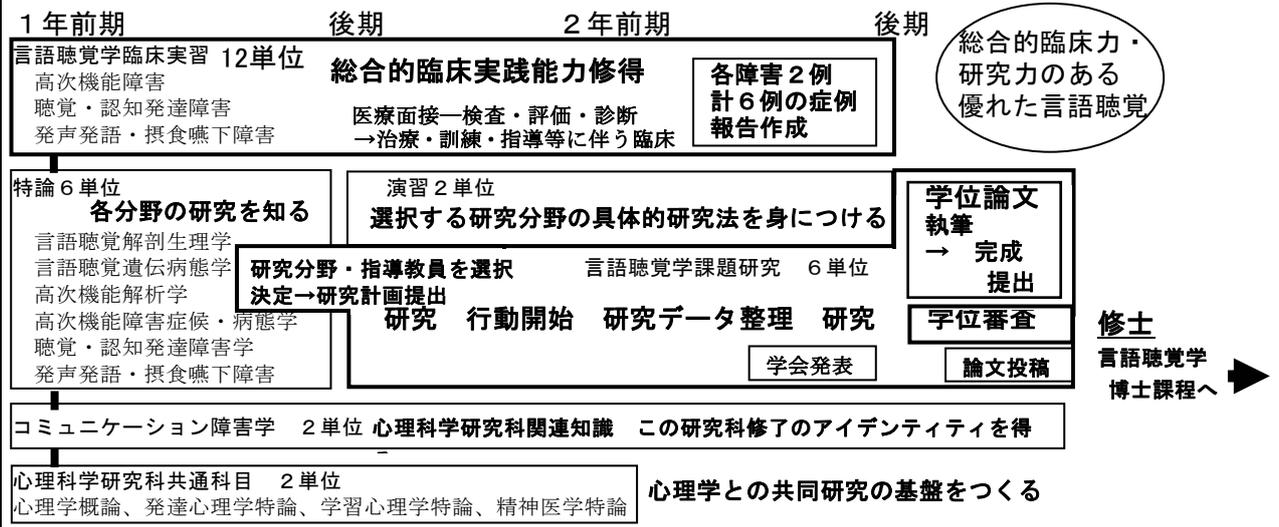
北海道医療大学：言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

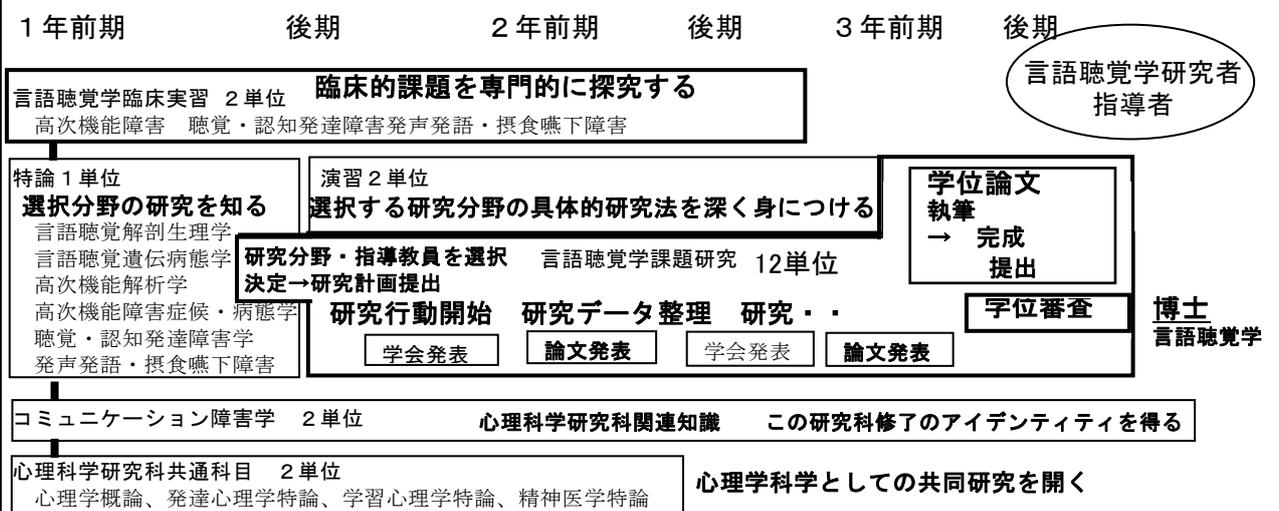
○学部教育（学士課程）



○大学院博士前期課程教育（修士課程）



○大学院博士後期課程教育（博士課程）



大学院の臨床実習をコアカリキュラム作成、臨床技能修得のプログラム化、臨床技能研修、学外実習、マルチメディア・e-learning 教材活用、スキルラボ活用、地域開放、大学院OSCE実施などで強化する。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「総合的臨床能力・研究力を身につけさせる」という目的の下、これまでの学部教育の実績に基づき、平成18年4月に我が国最初の言語聴覚士養成の大学院として発足されている。今後、社会的にも必要性が高くなると予想される言語聴覚師のキャリアアップと指導者育成を目指して、大学院教育の実質化に向けた基盤の確立のための努力が期待される。しかし、育成した人材の活躍の場（社会的ニーズ）も想定した人材像の位置づけを明確にするとともに、博士課程修了者を言語聴覚研究者とするためには、医療や脳科学領域などとの緊密な連携の構築も必要である。

教育プログラムについては、これまでの教育活動を踏まえ、総合的臨床能力養成臨床実習の充実などが提案されており、評価できるが、その内容等も含め、教育プログラムの実現に向けて更なる計画の具体化が望まれる。